

農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

集落みんなで作った会社

受賞者 かぶしきがいしや 株式会社 ごっさえいのう 五斗長宮農
ひょうごけんあわじしくろだに
(兵庫県淡路市黒谷)

■ 地域の沿革と概要

淡路島の北部から中部に位置する淡路市は、東に大阪湾、西に播磨灘を臨み、総面積184.35km²で、淡路島全体の約3割を占め、北は明石海峡大橋で神戸市と繋がっており、南は洲本市と接している。大阪湾、播磨灘の海に挟まれていることから、多くの漁港や海水浴場がある。また、市内には大きな河川は無く、瀬戸内海式気候のため平均気温が15度と温暖で少雨のため農業用ため池が多く存在する。中央部には津名丘陵が走り（最高峰妙見山522m）、全面積の半分以上を山地が占める。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

五斗長地区は、兵庫県淡路島の北部西側斜面、海岸から約3km、標高150～200mの丘陵地に位置する地域である。

平成28年3月現在、地区の総戸数は50戸で人口は130人、高齢化率は40%となっており、少子化、過疎化が進んでいる。農業は水稻及びたまねぎを中心に栽培しており、たまねぎは“まるごたまねぎ”として名を馳せていたが、生産は縮小傾向である。

第1表 地区の概要

事 項	内 容
地区の規模	集落
地区の性格	機能的な集団等
農 家 率 (内訳)	66.2% 総世帯数 358戸 総農家数 237戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 46戸 1種兼業農家 20戸 2種兼業農家 102戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 1,496ha 耕地面積 118ha 田 103ha 畑 14ha 耕地率 7.9% 農家一戸当たり耕地面積 0.5ha

注) データは淡路市旧育波村

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

中山間地である五斗長地区は、農地のほとんどが棚田等の不整形な未整備田という状況にあり、担い手の減少と高齢化による耕作放棄地の増加が地区の課題として懸念されていた。

そのような折、平成16年に台風23号が直撃し山林が崩れ、複数のため池が連鎖的に決壊し地区のほとんどの農地が耕作不能な状態となり、このことが

地域にとって、主要な位置づけである地域農業を見直す大きな転機となって、地区でまちづくり協議会を設立して今後の農業を見据え、単なる災害復旧にとどめることなく、ほ場整備による復旧が計画されることとなった。

ほ場整備事業が始まると、ほ場の下から弥生時代後期の国内最大規模の鉄器製造群落遺跡である五斗長垣内遺跡が発掘された。この遺跡は住居が少なく鉄器製作に特化しているという特徴をもつ全国的にも珍しい貴重な遺跡であることが分かり、この地で暮らし続けた祖先への敬意の気持ちを込めて保存することとなった。

また、農村集落を守っていくためには農地を維持しなければならず、農業を安定的に継続する必要があることから、一集落一農場を目指し、平成19年には法人化を見据えた営農組合を結成、平成21年9月には「株式会社五斗長営農」を設立し、農業はもちろんのこと、集落資源を活用して、集落民が一丸となって地域づくりに携わることになった。



写真1 五斗長垣内遺跡

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

五斗長集落は戸数50戸の小さな集落であるため、「株式会社五斗長営農」には集落農家のほとんどが参加している。

また、「五斗長まちづくり協議会」は集落の全員を対象としており役員構成は町内会、老人会、農会、水利組合など各種団体の役員からなっている。

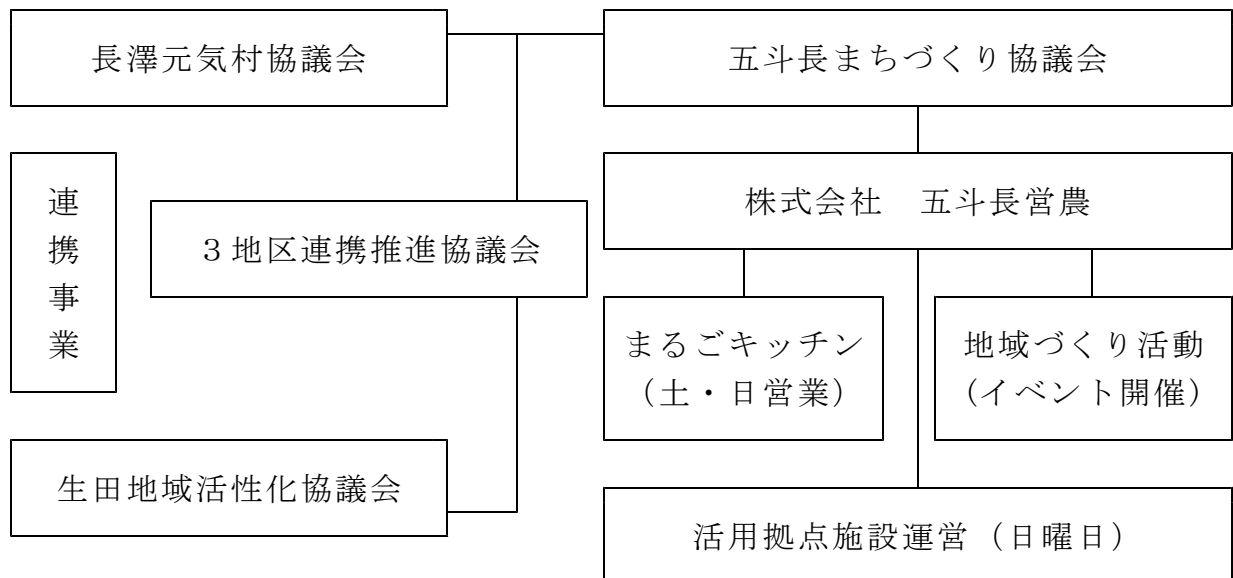


写真2 古代米の栽培（収穫体験）

五斗長地区は、「淡路環境未来島構想（※）重点地区」に指定されており、地域づくり活動や集客イベントへの助成も受けている。

※「淡路環境未来島構想」とは、「国生みの島」^{みけつくに}「御食国」と呼ばれ、歴史、自然、食など豊富な地域資源に恵まれた淡路島で、持続可能な地域社会モデルを、住民、NPO、企業、行政（兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市）が一緒になって生み出していこうとする取組である。

第2図 むらづくり推進体制図



ウ むらづくりに関して、各集落の住民の当該集団等や連携する他の組織、団体との関係及び参加状況等

町内会、老人会、女性部、農会の各種団体との協働を実施している。また、五斗長垣内遺跡を核とし、野外ミュージアムや体験教室などを

展開しており、遺跡公園内でカフェ「まるごキッチン」を開店、地域の食材を使ったランチを提供している。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

五斗長地区には、中山間地の農村地域を生きる者として将来ビジョンを考える若手が育つ素地が従来からあったが、台風災害という深刻な状況を打破する力が生まれたことから地域が一つにまとまり、ほ場整備を決断することと合わせて、営農組織が検討され法人化されるまでに至った。



写真3 平成16年台風26号による被害状況

株式会社五斗長営農では、営農面だけではなく、加工品の開発・製造、導入作物の研究、販路拡大の調整を行っている。

また、都市農村交流活動にも積極的で様々なイベントを通して、地域農産物をPRするなど地域のファンづくりを進めている。この際、地域住民自らが五斗長垣内遺跡などの地域文化に誇りを持ち、楽しみながら企画実施していることが継続していく原動力となっている。

2. 農業生産面における特徴

収益確保のため、たまねぎを水稲の裏作として作付ける等に取り組む、経営向上に向けた営農を展開している。

また、農地中間管理事業を活用した農地集積に着手し、79%の農地を集積しており、淡路市で初の「一集落一農場」を実現した。

集落営農を始める前はすべてが兼業農家で、しかも第2種兼業農家がほとんどであり農外収入で農機具を購入するような状態であったが、集落営農が始まったことにより新たな設備投資が不必要となった。また、法人組織にしても決して後継者問題が解決したわけではないが、玉ねぎの直接販売を行うなど収益を高めることにより若手



写真4 たまねぎ定植機による植付

の常時雇用を行い後継者育成につなげているほか、平成26年に営業を開始したカフェ「まるごキッチン」に地域の女性が法人経営に参画することとなり、積極的に意見も取り入れている。



写真5 古代米ごはんを使った「五斗長ランチ」

3. 生活・環境整備面における特徴

株式会社五斗長営農では、草引きや選果選別作業は老人会長に声掛けを依頼し、老人会の中でローテーションを組んで出役していただいている。高齢者の方々は世間話をしながら作業し、親睦を深めるなど情報交換も行っている。

高齢者の雇用により給料日にはお年寄り達が食事に出かけたり、親睦会を開いたり新たなコミュニティが形成されている。

五斗長まちづくり協議会では年に3回のイベントと研修旅行を行っており、それらには「ふるさとむら五斗長」に登録された会員（農村ボランティア）に参加案内を行いイベントのお手伝いや一緒に研修旅行に行くなど都市住民との交流活動も行っている。

現在「まるごキッチン」を運営する女性達は将来的には子育てが終わった世代への引継ぎを視野にいれており、地域が地域の雇用を創出し若い女性の働く場を提供することにより若者が暮らしやすい、女性が活躍できる環境づくりを目指している。



写真6 五斗長垣内遺跡活用拠点施設